

# スチール センター 島 広

## 「暗視野投光器」を設置

### 鋼板表面 検査装置 油付、キズ確実に検出

【東広島】伊藤忠丸紅鉄鋼グループの自動車向け主力のコイルセンター、広島スチールセンター（本社）広島県東広島市、長谷川豊蔵社長）は、一昨年5月にレベラーラインに取り付けた鋼板表面自動検査装置にこのほど

「暗視野投光器」を設置した。油付き鋼板の表面キズを検査する場合の油下の鋼板キズと油スジとの誤検知を回避するもので、同照明器の導入により正確なキズ検出が可能となった。

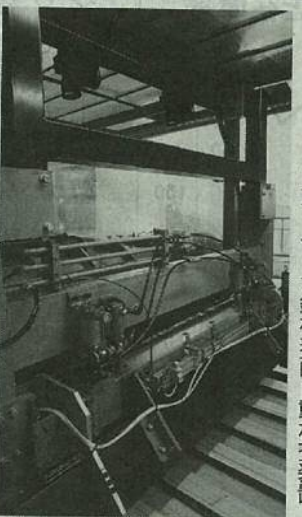
レベラーラインに導入した鋼板表面自動検査装置は、ライン真上から前方斜め10度の角度にカメラ（受光器）を設置、後方斜め10度と斜め50度の角度に設置した2台のLED投光器（正反射タイプと乱反射タイプ各1台）

から鋼板表面に光を照射し、その反射光をカメラで捉え、鋼板キズなどを検知する仕組み。通常の照射光では油付き鋼板を検査する

場合、油下の鋼板キズが油のスジと一部重な

り誤検知を生じるケースがあったが、この誤検知を回避するため装置製造元のヒューテック・オリジン（香川県高松市）がこのほど開発したのが「暗視野投光器」。

同投光器を後方斜め10度の角度に設置した従来のLED投光器（正反射タイプ）に取り付けることで、正面に照射される光が遮断され、横方向に照射される光のみで油スジは暗側に、キズは明側に認識でき、油スジの影響を受けることなくキズを確実に検出できる。広島スチールセンターに設置したのが1号機で、開発にあたり



レベラーラインに取り付けた鋼板表面自動検査装置

では伊藤忠丸紅鉄鋼の技術支援室がサポートした。

広島スチールセンターでは本年度内に、鋼板表面自動検査装置を2基のスリッターラインのうち1基にも導入する計画。新安全防護柵のさらなる設置も予定する。同社の前期（2016年3月期）の鋼板総加工量は過去最高